

## 「生駒市行政改革大綱 前期行動計画」の取組状況（R2年度末時点）

取組No. 1

I	健全な財政基盤の確立
1	事務事業の継続的な見直し
(1)	事務事業の見直し

## 【取組状況】

担当課	行政経営課
取組内容	事務事業の見直し

## 【R元年度の取組】

R元年度の取組実績	対象事業44事業のうち、17事業について生駒市行政改革推進委員会に諮問し、継続審議となった2事業を除く15事業について意見書の提出を受けた。意見書の内訳は、廃止3件、部分廃止1件、見直し11件であった。廃止の提言を受けた事業のうち、幼児2人同乗用自転車購入補助金（R1予算額1,200千円）はR2年度から廃止となった。		
実績・数値目標	指標1	指標2	指標3
	指標名	事務事業の見直し実施件数	
	目標値	17事業	
	R1実績値	17事業	
	歳入増加額 (千円)	-	
	歳出削減額 (千円)	1,200	
目標値と実績値の差分についての理由			

## &lt;総合評価&gt;

A：高い成果が得られた B：予定どおりの成果が得られた C：一定の成果が得られた  
D：やや不十分な成果にとどまった E：成果は不十分であった

## 【担当課の自己評価】

総合評価	C：一定の成果が得られた
評価の根拠	・目標値を達成できたため。 ・委員会から提出された意見書の内容を次年度予算に反映できた事業が少なかったため。 意見書 廃止3件、部分廃止1件、見直し11件 市の対応 廃止1件、見直し1件

## 【R2年度の取組】

R2年度の取組実績	R2年度の対象事業27事業のうち、8事業について生駒市行政改革推進委員会に諮問し、意見書の提出を受けた。意見書の内訳は、廃止1件、見直し7件であった。また、R3年度予算へ提言を受けての反映を行った事業は3事業であった。さらに、負担金の見直しを実施した。		
実績・数値目標	指標1	指標2	指標3
	指標名	事務事業の見直し実施件数	
	目標値	27事業	
	R2実績値	8事業	
	歳入増加額 (千円)	-	
	歳出削減額 (千円)	7,939	
目標値と実績値の差分についての理由	新型コロナウイルス感染症の影響により、委員会の開催が当初の予定より大幅にずれ込み、当初予定の開催回数を実施できなくなったため。 また、各課の事業においても新型コロナウイルス感染症の影響で中止や延期となったもの、福祉に関する事業でコロナ禍において審議するに適さないと考えられるものがあることから見直し対象の事業数を変更したため。		

## 【R3年度の取組】

課題	令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、委員会の開催スケジュールに大きな支障が生じた。また、福祉・医療分野等、新型コロナウイルス感染症の影響から市民生活に直結する事業などコロナ禍において審議に適さない事業が未審議となっている。
課題に向けた取組	特定の事業についての見直しは行わず、市の実施している補助金全体について、横断的に見直しを行う。また、オンライン会議を活用し、コロナ禍であっても審議ができる環境作りに取り組む。

## &lt;総合評価&gt;

A：高い成果が得られた B：予定どおりの成果が得られた C：一定の成果が得られた  
D：やや不十分な成果にとどまった E：成果は不十分であった

## 【担当課の自己評価】

総合評価	D：やや不十分な成果にとどまった
評価の根拠	・実績値が目標値を大きく下回ったため。 ・委員会から提出された意見書の内容を次年度予算に反映できた事業が少なかったため。 意見書 廃止1件、見直し7件 市の対応 廃止1件、見直し2件

「生駒市行政改革大綱 前期行動計画」の取組状況（R2年度末時点）

取組No. 9

Ⅲ	ファンリティマネジメントの推進
1	公共施設の有効活用
(1)	公共施設の最適化・長寿命化

【取組状況】

担当課	行政経営課
取組内容	公共施設マネジメント推進計画に基づく公共施設の最適化

【R元年度の取組】

R元年度の取組実績	公共施設の長寿命化や適正配置の推進を目的とする「生駒市公共施設マネジメント推進計画」の策定に向けて生駒市公共施設マネジメント推進会議及び生駒市行政改革推進委員会で審議し、令和2年3月に行政改革推進委員会から答申を受けた。		
実績・数値目標	指標1	指標2	指標3
	指標名	公共施設の延床面積	
	目標値	-	
	R1実績値	-	
	歳入増加額(千円)	-	
	歳出削減額(千円)	-	
目標値と実績値の差分についての理由	公共施設マネジメント推進計画をR1年度中に策定する予定であったが、個別施設計画の策定を前倒し、両計画を同時に策定したことからR2年9月の計画策定となった。		

<総合評価>

A：高い成果が得られた B：予定どおりの成果が得られた C：一定の成果が得られた  
D：やや不十分な成果にとどまった E：成果は不十分であった

【担当課の自己評価】

総合評価	D：やや不十分な成果にとどまった
評価の根拠	・公共施設マネジメント推進計画について、R1年度中に策定予定であったが、R2年度にずれこんだため。

【R2年度の取組】

R2年度の取組実績	令和元年度に行政改革推進委員会から受けた答申を基に、公共施設の適正配置に向けた方針及び10年間の具体的な取り組みを定める計画として、令和2年9月に「生駒市公共施設マネジメント推進計画」及び「生駒市個別施設計画」を策定した。		
実績・数値目標	指標1	指標2	指標3
	指標名	公共施設の延床面積	
	目標値	-	
	R2実績値	-	
	歳入増加額(千円)	-	
	歳出削減額(千円)	-	
目標値と実績値の差分についての理由			

課題	総合評価等において、「維持（既存の他施設へ移転）」や「既存の他施設を利用することを検討する」とされている施設で、特に早急に検討を要する施設について、方向性を定めていく必要があるが、手法・進め方については検討が必要である。また、修繕・改修・更新とした施設について、具体的な金額やスケジュールが明確になっていない施設が多数ある（ハード面：廃止28施設、更新3施設、改修2施設、修繕45施設、保留3施設、維持77施設）。
課題に向けた取組	計画に基づく各施設の取組・進捗状況の把握計画は、令和11年度までの10年間を計画期間とし、計画策定中を含む期間内に3.83%の延床面積削減を見込んでいる。計画については5年後を目途に見直しを行うが、随時各施設の方針に基づく取組・進捗状況を把握し、予算の削減、平準化に取り組みとともに、施設の再配置等の検討を行う。令和3年度中に、個別施設計画に修繕時期や金額を記載する予定である。

<総合評価>

A：高い成果が得られた B：予定どおりの成果が得られた C：一定の成果が得られた  
D：やや不十分な成果にとどまった E：成果は不十分であった

【担当課の自己評価】

総合評価	C：一定の成果が得られた
評価の根拠	・「公共施設マネジメント推進計画」及び「個別施設計画」の策定は完了したが、計画で定める方針に向かって進めていくためには、具体的な手法の検討や地元との協議など、更なる取組が求められるため。

「生駒市行政改革大綱 前期行動計画」の取組状況（R2年度末時点）

取組No. 10

Ⅲ	ファンリテイマネジメントの推進
1	公共施設の有効活用
(1)	公共施設の最適化・長寿命化

【取組状況】

担当課	みどり公園課
取組内容	公園街路樹維持管理業務の見直し

【R元年度の取組】

R元年度の取組実績	公園の高木剪定については、人件費が上昇したものの、剪定本数を見直し、委託料の縮減を図った。		
実績・数値目標	指標1	指標2	指標3
	指標名	委託料	
	目標値	-	
	R1実績値	-	
	歳入増加額(千円)	-	
	歳出削減額(千円)	-	
目標値と実績値の差分についての理由			

<総合評価>

A：高い成果が得られた B：予定どおりの成果が得られた C：一定の成果が得られた  
D：やや不十分な成果にとどまった E：成果は不十分であった

【担当課の自己評価】

総合評価	B：予定どおりの成果が得られた
評価の根拠	公園の高木剪定は2年に1回である。平成29年度と令和元年度の労務費を比較すると約3%増加しているが、剪定する高木を精査し約470万円縮減した。 (29年度決算額(2億750万円)×103%) - 令和元年度決算額(2億880万円) = 470万円

【R2年度の取組】

R2年度の取組実績	公園の高木剪定については、人件費が上昇したものの、剪定本数を見直し、委託料の縮減を図った。公園施設の維持管理については、住民と協働で修繕を行うなど新たな維持管理に取り組むことができた。		
実績・数値目標	指標1	指標2	指標3
	指標名	委託料	
	目標値	-	
	R2実績値	-	
	歳入増加額(千円)	-	
	歳出削減額(千円)	-	
目標値と実績値の差分についての理由			

【R3年度の取組】

課題	公園・街路樹の維持管理費用が縮減される中、最小の費用で効果を得るべく樹木剪定等を見直して事業に取り組む必要がある。例えば、公園の高木、緑地内の草地などこれまでどおりの手入れができず、公園利用者等に影響が出ている。また、公園等の在り方について、維持管理をされている自治会等と行政が共に考えることが求められる。
課題に向けた取組	公園高木の剪定及び緑地の草刈り範囲の縮減、みんなの公園ワークショップ事業を通じた公園の在り方の再検討。また、公園街路樹維持管理費の平準化を図り、経費の縮減のため、街路樹の更新・撤去の方針をまとめる。

<総合評価>

A：高い成果が得られた B：予定どおりの成果が得られた C：一定の成果が得られた  
D：やや不十分な成果にとどまった E：成果は不十分であった

【担当課の自己評価】

総合評価	B：予定どおりの成果が得られた
評価の根拠	公園の高木剪定は2年に1回である。平成30年度と令和2年度の労務費を比較すると5%増加しているが、剪定する高木を精査し約620万円縮減した。 (30年度決算額(2億650万円)×105%) - 令和2年度決算額(2億1,010万円) = 約620万円 住民との協働の維持管理の一例としては、南田原第2・第3公園のベンチの塗り直しを自治会で実施した。

## 「生駒市行政改革大綱 前期行動計画」の取組状況（R2年度末時点）

取組No. 11

IV	市民、事業者等との協働によるまちづくりの推進
1	市政情報の提供・情報共有の充実
(1)	市政情報の分かりやすい情報提供・効果的な情報共有

## 【取組状況】

担当課	広報広聴課
取組内容	市政情報の提供・発信

## 【R元年度の取組】

R元年度の取組実績	R2年度のHPリニューアルに向けて、アクセスログ分析やアンケートなどの各種調査を実施した。その結果、ページに関連する情報へのリンクなどを設置し、サイトの回遊率を向上させる取組が有効であることが分かったため、HPリニューアル方針に反映した。		
実績・数値目標	指標1	指標2	指標3
	指標名	市民満足度調査における「市の情報収集元」をホームページと回答した比率	ホームページの閲覧総頁数
	目標値	—	6,229,000頁
	R1実績値	—	6,661,546頁
	歳入増加額（千円）	—	—
	歳出削減額（千円）	—	—
目標値と実績値の差分についての理由	選挙や災害など、緊急性が高い情報を発信する機会が多く、市民の関心も非常に高かったため。		

## &lt;総合評価&gt;

A：高い成果が得られた B：予定どおりの成果が得られた C：一定の成果が得られた  
D：やや不十分な成果にとどまった E：成果は不十分であった

## 【担当課の自己評価】

総合評価	B：予定どおりの成果が得られた
評価の根拠	平成31年4月の選挙や7月から10月にかけて発信した防災・災害情報など、緊急性が高く、リアルタイムで市民が必要とする情報を適切に発信したこと、またホームページのリニューアルに向けて、課題を洗い出し整理したことで、リニューアルの準備ができた。

## 【R2年度の取組】

R2年度の取組実績	令和3年3月に①トップメニューの見直し②アクセシビリティAA準拠の枠組みを整備（フォント数、色のコントラスト比など）③イベント・報道資料のページに検索メニューを設定④各ページに同階層・コメント・親子ページのリンク先を表示する、の4点を主なポイントに、市ホームページをリニューアルした。		
実績・数値目標	指標1	指標2	指標3
	指標名	市民満足度調査における「市の情報収集元」をホームページと回答した比率	ホームページの閲覧総頁数
	目標値	73.1%	6,291,000頁
	R2実績値	55.7%	11,759,052頁
	歳入増加額（千円）	—	—
	歳出削減額（千円）	—	—
目標値と実績値の差分についての理由	調査結果では、ホームページが減少し、Twitter、Facebook、自治会掲示板、回覧板が増加となった。指標2の伸びからもホームページを情報源にしている人は多いため、紙媒体や掲示板から情報を入手する傾向にある、高齢者の回答数が多かったことによる結果と考えられる。		

## 【R3年度の取組】

課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リニューアル後のシステムの不具合を直し、適宜メンテナンスを行う。</li> <li>・現在、コロナの影響で平常時と異なる閲覧状況になっているが、平常時になったときに、アクセス数が格段に下がらず、サイトの回遊率が向上しているよう、リニューアル後の課題を洗い出す。</li> <li>・幼稚園や保育所、こども園のページが分かりづらく管理も難しくなっているため、分類から見直す。</li> </ul>
課題に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ関連ページと、それ以外のページで閲覧数や回遊率を確認する。</li> <li>・アクセス数の多いページやリンクが切れているページなどの情報を庁内で共有し、各課が制作しているページを改善しようという意識形成を行う。</li> <li>・市ホームページの枠組みだけでなく、各コンテンツの作り方もアクセシビリティAAに準ずるように、各課のページ制作、保守を支援する。</li> </ul>

## &lt;総合評価&gt;

A：高い成果が得られた B：予定どおりの成果が得られた C：一定の成果が得られた  
D：やや不十分な成果にとどまった E：成果は不十分であった

## 【担当課の自己評価】

総合評価	B：予定どおりの成果が得られた
評価の根拠	指標1については低くなったが、指標2で大きく数字が伸びているとおり、コロナ禍であることや災害や選挙などリアルタイムに情報を発信することができる市ホームページの果たす役割が大きくなってきており、必要とされる情報を発信できたと考えられる。

## 「生駒市行政改革大綱 前期行動計画」の取組状況（R2年度末時点）

取組No. 12

IV	市民、事業者等との協働によるまちづくりの推進
1	市政情報の提供・情報共有の充実
(2)	情報共有の充実に向けたツールの活用

## 【取組状況】

担当課	広報広聴課
取組内容	多様なツールで情報発信

## 【R元年度の取組】

R元年度の取組実績	多言語ユニバーサル情報発信ツール「MC Catalog+」をR元年7月に導入した。防災ガイドブックや毎月の広報紙などをツール上に公開し、R元年7月～R2年3月の累計閲覧数は2,989回となった。		
実績・数値目標	指標1	指標2	指標3
	指標名	市政情報などを発信・共有するツール数	Twitterフォロワー数
	目標値	6ツール	12,578人
	R1実績値	6ツール	14,579人
	歳入増加額(千円)	-	-
	歳出削減額(千円)	-	-
目標値と実績値の差分についての理由	各部署が所管するアカウントで有益な情報をツイートしており、いこまタケ（広報広聴課）や防災いこま（防災安全課）、消防本部などのアカウントでフォロワー数を増やしているため。		

## &lt;総合評価&gt;

A：高い成果が得られた B：予定どおりの成果が得られた C：一定の成果が得られた  
D：やや不十分な成果にとどまった E：成果は不十分であった

## 【担当課の自己評価】

総合評価	B：予定どおりの成果が得られた
評価の根拠	指標1については、年齢や障がいの有無、言語等に関わらず市の情報を入手できるよう、多言語ユニバーサル情報発信ツール「MC Catalog+」をR元年7月に導入した。また、指標2については、興味を持ってもらうようクイズ形式の投稿や季節や話題、タイミングを見ずえた投稿等を心がけたことにより、フォロワー数を増やすことができた。

## 【R2年度の取組】

R2年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R2年度に新たに採用したInstagramを含め、7つのツール（広報紙、ホームページ、twitter、facebook、Instagram、チラシ・ポスター、カタログポケット）でそれぞれの特徴を生かしたタイミングや内容を精査し、情報発信情報を入手しやすい環境を整備した。</li> <li>・市ホームページの課題を洗い出し、使いやすさやアクセシビリティの向上、さらなるスマートフォンでの閲覧に対応した市ホームページのリニューアル（ライフシーンの再設定、検索条件を指定できるイベント検索の新設等による利便性向上）を行った。</li> </ul>		
実績・数値目標	指標1	指標2	指標3
	指標名	市政情報などを発信・共有するツール数	Twitterフォロワー数
	目標値	6ツール	13,207人
	R2実績値	7ツール	21,912人
	歳入増加額(千円)	-	-
	歳出削減額(千円)	-	-
目標値と実績値の差分についての理由	令和2年度にInstagramを導入したことにより目標値を上回った。	令和2年度から小・中学校ごとにアカウントを立ち上げたことと、新型コロナウイルス感染症・災害などについて有益な情報ツイートし、防災いこま（防災安全課）、生駒市健康情報のアカウントでフォロワー数が増加したことにより目標値を上回った。	

## 【R3年度の取組】

課題	・情報発信ツールの増加とともに、事務作業や経費が増加することになる。また、日々新たなツールが開発されており、費用、効果、安全性などを検証し、新たなシステムの導入や場合によっては廃止の検討をする必要がある。
課題に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1つの情報を複数のツールで発信することを心がけることで、できるだけ多くの市民に情報が届くようにするとともに事務作業を軽減する。</li> <li>・市民が、どのような情報発信・収集ツールを使っているかを常に意識し、現在の情報発信ツールの改善や新たなツールの導入等を検討する。</li> </ul>

## &lt;総合評価&gt;

A：高い成果が得られた B：予定どおりの成果が得られた C：一定の成果が得られた  
D：やや不十分な成果にとどまった E：成果は不十分であった

## 【担当課の自己評価】

総合評価	B：予定どおりの成果が得られた
評価の根拠	指標1については、Instagramは令和3年3月8日時点でフォロワー数が1,092人となった。指標2については、普段の子どもたちの様子や学校の取組を発信するため小・中学校ごとにアカウントを立ち上げるなど、市の活動を広く発信し、市政への参加を促すことができた。

## 「生駒市行政改革大綱 前期行動計画」の取組状況（R2年度末時点）

取組No. 13

IV	市民、事業者等との協働によるまちづくりの推進
2	協働の取組の推進
(1)	市民自治協議会の設立拡大と活動支援

## 【取組状況】

担当課	市民活動推進課
取組内容	市民自治協議会の設立に向けた支援とともに、市民自治協議会や準備会の活動支援

## 【R元年度の取組】

R元年度の取組実績	市民自治協議会補助金助成を実施し、市民自治協議会の設立に向けた支援を行った結果、あいさつタウンネットワーク（南小・二小校区）で新たに市民自治協議会が設立された。		
実績・数値目標	指標1	指標2	指標3
	指標名	市民自治協議会設立数	ワークショップの開催箇所数
	目標値	2団体	4箇所
	R1実績値	2団体	2箇所
	歳入増加額（千円）	-	-
	歳出削減額（千円）	-	-
	目標値と実績値の差分についての理由	集会や総会、研修会等で啓発や説明を行ったが、開催まで至る団体が少なかったこと、また開催予定の団体については、R2年2月に開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響等により日程調整が難航し開催できなかったため。	

## &lt;総合評価&gt;

A：高い成果が得られた B：予定どおりの成果が得られた C：一定の成果が得られた  
D：やや不十分な成果にとどまった E：成果は不十分であった

## 【担当課の自己評価】

総合評価	D：やや不十分な成果にとどまった
評価の根拠	新型コロナウイルス感染症の影響等によりワークショップの開催回数が目標値に達しなかったこと、市民自治協議会の活動自体も積極的に展開できなかったため。

## 【R2年度の取組】

R2年度の取組実績	市民自治協議会2団体及び市民自治協議会準備会1団体に対して補助金助成による協働事業を実施した。 また、市民自治協議会1団体のWSに対して講師謝礼による助成を行い、さらなる活動の活性化に寄与した。		
実績・数値目標	指標1	指標2	指標3
	指標名	市民自治協議会設立数	ワークショップの開催箇所数
	目標値	2団体	3箇所
	R2実績値	2団体	2箇所
	歳入増加額（千円）	-	-
	歳出削減額（千円）	-	-
	目標値と実績値の差分についての理由	コロナ禍による緊急事態宣言等によりWSが開催できなかったため。今後は少人数での開催や分散型で開催を検討する。	

## 【R3年度の取組】

課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>複数団体による市民自治協議会に向けた機運の醸成。</li> <li>コロナ禍における多人数が一同に会することへの対策。</li> </ul>
課題に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題がどこにあるかを定期的にヒアリングし、解決に向けて市職員が伴走支援する。</li> <li>少人数での開催や短時間開催などを検討する。</li> </ul>

## &lt;総合評価&gt;

A：高い成果が得られた B：予定どおりの成果が得られた C：一定の成果が得られた  
D：やや不十分な成果にとどまった E：成果は不十分であった

## 【担当課の自己評価】

総合評価	D：やや不十分な成果にとどまった
評価の根拠	新型コロナウイルス感染症の影響等によりワークショップの開催回数が目標値に達しなかったこと、市民自治協議会の活動自体も積極的に展開できなかったため。

## 「生駒市行政改革大綱 前期行動計画」の取組状況（R2年度末時点）

取組No. 14

IV	市民、事業者等との協働によるまちづくりの推進
2	協働の取組の推進
(2)	市民、事業者、NPO等との協働によるまちづくり

## 【取組状況】

担当課	市民活動推進課
取組内容	コーディネート機能の充実による活躍の場の提供

## 【R元年度の取組】

R元年度の取組実績	自治会や地域のサロン等に対して、ららポート関連団体が提供できるプログラムを一元化した資料「おたすけ帳」を作成して配布する等、活動の可視化を行った。おたすけ帳を見てマッチングを希望する地縁組織が見つかったほか、団体間で事業企画をする上での参考資料としても機能するなど、市民活動の幅に広がりが出た。		
実績・数値目標	指標1	指標2	指標3
	指標名	コーディネート件数	
	目標値	155件（単年度延件数）	
	R1実績値	178件（単年度延件数）	
	歳入増加額（千円）	-	
	歳出削減額（千円）	-	
目標値と実績値の差分についての理由	おたすけ帳の有効活用が効果的だった。また、マイサポいこまなど、これまでに行っていた市民活動の参画促進が進んできていると考えている。		

## &lt;総合評価&gt;

A：高い成果が得られた B：予定どおりの成果が得られた C：一定の成果が得られた  
D：やや不十分な成果にとどまった E：成果は不十分であった

## 【担当課の自己評価】

総合評価	B：予定どおりの成果が得られた
評価の根拠	おたすけ帳を作成したことで、市民活動団体が市民に提供できるプログラムの内容や条件が明確になり、コーディネート機能の充実につながり、結果として、目標値を上回ることができた。 また、おたすけ帳作成をきっかけに、団体運営の課題を聞き、講座等で解決するきっかけにもなった。

## 【R2年度の取組】

R2年度の取組実績	新型コロナウイルス感染拡大の影響でNPO等の活動を中止せざるを得ない中、オンラインミーティングツールや、情報発信用のウェブサイト作成講座を開催する等して非対面型のコーディネートを実施した。		
実績・数値目標	指標1	指標2	指標3
	指標名	コーディネート件数	
	目標値	160件（単年度延件数）	
	R2実績値	41件（単年度延件数）	
	歳入増加額（千円）	-	
	歳出削減額（千円）	-	
目標値と実績値の差分についての理由	市民公益活動は、その多くが対面式で行われるが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から活動そのものを自粛せざるをえなかったため。		

## 【R3年度の取組】

課題	令和3年度も引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止のために、市民公益活動を自粛せざるを得ない。また、市民公益活動は、人と人との関わりの度合いが大きく影響するものであり、今まで培われてきた関係が希薄になることも想定される。これまで行政や民間企業があまり関わっていない互助・共助を担っていた市民公益活動の停滞や、暮らしの変化で新たな助け合いの形が必要となることから、市民公益活動の縮小防止が課題となる。
課題に向けた取組	新型コロナウイルス感染拡大も依然として収束の見通しが立たず、引き続き市民活動の自粛が予想されることから、市民公益活動団体や市民公益活動実践者に対して、団体の運営基盤の強化や情報発信力向上を目的とした各種講座の開催、また、コロナ禍でもできる新しい生活様式での活動の提案を行う。

## &lt;総合評価&gt;

A：高い成果が得られた B：予定どおりの成果が得られた C：一定の成果が得られた  
D：やや不十分な成果にとどまった E：成果は不十分であった

## 【担当課の自己評価】

総合評価	D：やや不十分な成果にとどまった
評価の根拠	コロナ禍で市民活動ができない状況が続き、活動を自粛する動きが各地で見受けられ、相談件数は年間を通して伸び悩む結果となった。しかしながら、活動のPR力向上を目的とした講座や、団体同士の協働事業を企画して、コロナ後の社会に向けた支援を行った。

## 「生駒市行政改革大綱 前期行動計画」の取組状況（R2年度末時点）

取組No. 15

IV	市民、事業者等との協働によるまちづくりの推進
2	協働の取組の推進
(2)	市民、事業者、NPO等との協働によるまちづくり

## 【取組状況】

担当課	スポーツ振興課
取組内容	総合型地域スポーツクラブの推進・支援

## 【R元年度の取組】

R元年度の取組実績	市民のスポーツ活動を推進するため、総合型地域スポーツクラブの活動内容等の周知啓発（各種イベントや学校等を通じたチラシの配布）を行ったことで、クラブ会員数が増加した。また、クラブ間の連携や相互協力を図ることを目的とする総合型地域スポーツクラブ連携会議を開催した。			
実績・数値目標		指標1	指標2	指標3
	指標名	市内総合型地域スポーツクラブ設立数	市内総合型地域スポーツクラブ会員数	
	目標値	3クラブ	800人	
	R1実績値	3クラブ	807人	
	歳入増加額（千円）	-	-	
	歳出削減額（千円）	-	-	
目標値と実績値の差分についての理由				

## &lt;総合評価&gt;

A：高い成果が得られた B：予定どおりの成果が得られた C：一定の成果が得られた  
D：やや不十分な成果にとどまった E：成果は不十分であった

## 【担当課の自己評価】

総合評価	B：予定どおりの成果が得られた
評価の根拠	新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、3月以降は各クラブの事業開催が困難となったが、市内総合型地域スポーツクラブ連携会議の開催によるクラブ間の情報交換の場の提供や、市内小・中学校等を通じてクラブの活動内容の周知啓発を行ったことにより、目標を達成することができた。

## 【R2年度の取組】

R2年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民のスポーツ活動を推進するため、総合型地域スポーツクラブの活動内容等の周知啓発（各種イベントや学校等を通じたチラシの配布）や新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用して各クラブの施設使用料の半額補助を行った。また、クラブ事業で活用する備品を購入し、事業の向上を図った。</li> <li>クラブ間の連携や相互協力を図ることを目的とする総合型地域スポーツクラブ連携会議を開催するとともに、各クラブが連携してジュニアテニス大会を開催した。</li> </ul>			
実績・数値目標		指標1	指標2	指標3
	指標名	市内総合型地域スポーツクラブ設立数	市内総合型地域スポーツクラブ会員数	
	目標値	3クラブ（設立準備クラブ1）	825人	
	R2実績値	3クラブ	766人	
	歳入増加額（千円）	-	-	
	歳出削減額（千円）	-	-	
目標値と実績値の差分についての理由		令和元年度は目標値をわずかに上回ったものの、令和2年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため予定していた活動ができず、退会を希望される方が多かったなどの理由から目標を達成できなかった。		

## 【R3年度の取組】

課題	新型コロナウイルス感染症の影響により実施内容やスケジュール等に大きな支障が生じているため、今後は感染予防対策を講じた事業の実施や、事業そのもの実施方法やあり方についての検討が必要である。また、会員を増加させるための支援策や、新規クラブの設立についての人材の発掘や育成が必要である。
課題に向けた取組	コロナ禍の影響がある中で、クラブの安定運営と事業の拡充を図るため、これまで以上に、各クラブの活動内容等の周知啓発を行うとともに、クラブ間の更なる連携強化を図る必要がある。また、新しい生活様式を意識して、オンライン等を活用した事業展開の検討も必要と考えられる。新規クラブの設立については、既設クラブの現状分析や、現在の市民のスポーツニーズの把握などを行った上で、慎重に進めることが望まれる。

## &lt;総合評価&gt;

A：高い成果が得られた B：予定どおりの成果が得られた C：一定の成果が得られた  
D：やや不十分な成果にとどまった E：成果は不十分であった

## 【担当課の自己評価】

総合評価	C：一定の成果が得られた
評価の根拠	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4月から5月まで各クラブの活動が自粛されており、事業の相次ぐ中止、また、4月当初の新年度会員募集ができない状態であった。そのため、事業費や会員収入が激減し、各クラブの運営が困難となったことから「生駒市総合型地域スポーツクラブ活動支援事業補助金」を設置するとともに、コロナ収束時期にはクラブ間連携事業等の支援を行うことにより、会員数の大幅な減少を抑えることができた。



## 「生駒市行政改革大綱 前期行動計画」の取組状況（R2年度末時点）

取組No. 16

IV	市民、事業者等との協働によるまちづくりの推進
2	協働の取組の推進
(2)	市民、事業者、NPO等との協働によるまちづくり

## 【取組状況】

担当課	ICTイノベーション推進課
取組内容	民間事業者等との協働の活性化に向けた対話窓口の設置

## 【R元年度の取組】

R元年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員に対し、研修「公民連携による課題解決ワークショップ」を実施（全2回）し、「多様なライフスタイルの推進」や「切れ目のない子育て支援」など5つの課題を抽出した。</li> <li>協働を活性化するための仕組みを設けるため、公民連携の提案窓口「生駒市協創対話窓口」を設置するとともに、運用ルール等について定めたガイドラインを策定した。（R2.3月）</li> </ul>		
実績・数値目標	指標1	指標2	指標3
	指標名	対話窓口を通じた民間事業者等からの相談・提案件数	
	目標値	2件	
	R1実績値	0件	
	歳入増加額（千円）	-	
	歳出削減額（千円）	-	
目標値と実績値の差分についての理由	新型コロナウイルス感染症の影響により、予定していた「公民連携ワークショップ」が延期となるなど、提案促進に取り組むことが困難な状況にあった。		

## &lt;総合評価&gt;

A：高い成果が得られた B：予定どおりの成果が得られた C：一定の成果が得られた  
D：やや不十分な成果にとどまった E：成果は不十分であった

## 【担当課の自己評価】

総合評価	C：一定の成果が得られた
評価の根拠	生駒市協創対話窓口の設置、同窓口運用ガイドラインの策定、職員向け研修（ワークショップ）を予定通り実施した。一方で、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、民間事業者等を交えた「公民連携ワークショップ」を実施することが出来なかった。

## 【R2年度の取組】

R2年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和元年度に制定した「生駒市協創対話窓口運用ガイドライン」をもとに、公民連携窓口である「生駒市協創対話窓口」の本格的な運用を開始した。</li> <li>当該窓口において民間事業者等からの提案8件を受け、市から課題テーマを2件提示した。提案8件のうち4件について互いの強みを活かした事業を実施した。</li> <li>管理職向け公民連携推進研修を実施し40名が参加した。</li> </ul>		
実績・数値目標	指標1	指標2	指標3
	指標名	対話窓口を通じた民間事業者等からの相談・提案件数	
	目標値	4件	
	R2実績値	8件	
	歳入増加額（千円）	-	
	歳出削減額（千円）	-	
目標値と実績値の差分についての理由			

## 【R3年度の取組】

課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>より効果的な協創推進のためには、行政側から積極的に「課題」を提示して行く必要がある。また、よりスムーズな連携に向けて、民間事業者等と行政との価値観や行動原理の違いについて、相互理解を進める必要がある。</li> <li>コロナ禍の影響で県外、特に首都圏域の外出制限などにより企業とのワークショップには制限がかかる可能性がある。</li> </ul>
課題に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>公民連携研修や企業等とのワークショップなどを継続的に実施し、庁内での協創マインドを醸成するとともに市からの課題出しを図る。また、他市の先進的な事例紹介や、本市でも活用できる外部の公民連携推進事業などの活用を推進していく。</li> <li>企業等とのワークショップについては、コロナ禍でもできる形を検討する。</li> </ul>

## &lt;総合評価&gt;

A：高い成果が得られた B：予定どおりの成果が得られた C：一定の成果が得られた  
D：やや不十分な成果にとどまった E：成果は不十分であった

## 【担当課の自己評価】

総合評価	B：予定どおりの成果が得られた
評価の根拠	生駒市協創対話窓口の運用を開始し、民間事業者等から8件の提案を受け付け、その中から、担当部門と連携により4件の事業を実施した。また、市側から2件の課題テーマを提示した。

## 「生駒市行政改革大綱 前期行動計画」の取組状況（R2年度末時点）

取組No. 17

IV	市民、事業者等との協働によるまちづくりの推進
2	協働の取組の推進
(3)	市民のまちづくりへの参画

## 【取組状況】

担当課	市民活動推進課
取組内容	市民がまちづくりに参画できる機会提供の拡充と公益活動団体と地域との連携

## 【R元年度の取組】

R元年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各部署で参画と協働の観点を踏まえた事業づくりが行われるよう、職員研修を行った。（3回）</li> <li>・イコミアの継続実施など、市民がまちづくりに参画できる機会を提供した。</li> </ul>		
実績・数値目標	指標1	指標2	指標3
	指標名	参画・協働の事業数	職員研修の開催回数
	目標値	280事業	3回
	R1実績値	293事業	3回
	歳入増加額（千円）	-	-
	歳出削減額（千円）	-	-
目標値と実績値の差分についての理由	研修等により、各部署による参画と協働の観点を踏まえた事業づくりの醸成及び、市民がまちづくりに参画できる機会が増加したため。		

## &lt;総合評価&gt;

A：高い成果が得られた B：予定どおりの成果が得られた C：一定の成果が得られた  
D：やや不十分な成果にとどまった E：成果は不十分であった

## 【担当課の自己評価】

総合評価	C：一定の成果が得られた
評価の根拠	参画と協働の事業に参画できる機会が増加し、目標値に対して実績値が近似値であるため。

## 【R2年度の取組】

R2年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各部署で参画と協働の観点を踏まえた事業づくりが行われるよう、職員研修を行った。（1回）</li> <li>・イコミアの継続実施など、市民がまちづくりに参画できる機会を提供した。</li> </ul>		
実績・数値目標	指標1	指標2	指標3
	指標名	参画・協働の事業数	職員研修の開催回数
	目標値	290事業	3回
	R2実績値	269事業	1回
	歳入増加額（千円）	-	-
	歳出削減額（千円）	-	-
目標値と実績値の差分についての理由	コロナ禍による緊急事態宣言等により各部署の事業が開催できなかったため。今後は少人数での開催や分散型で開催を検討する。	コロナ禍による緊急事態宣言等により研修が開催できなかったため。今後は講師と職員間の研修はオンラインで開催したが、住民も参加するものは、少人数での開催やオンライン型で開催を検討する。	

## 【R3年度の取組】

課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口減少の中で参画と協働事業を推進していく社会の余裕感の無さ及び新たな社会局面に対する意識変革。</li> <li>・コロナ禍におけるイベント開催の是非及び感染対策、並びにその他の利益考慮（開催できなかった時の代替案等）について。</li> </ul>
課題に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会全体に余裕がなくなっている中、自治会活動が疲弊しないよう事業の選択と集中を行う。また、それらの活動を通じて、社会の閉塞感を緩和し、受容される環境を醸成していく。</li> <li>・コロナ対策に関して、市全体の方向性に留意しながら、事業推進をしていく。</li> </ul>

## &lt;総合評価&gt;

A：高い成果が得られた B：予定どおりの成果が得られた C：一定の成果が得られた  
D：やや不十分な成果にとどまった E：成果は不十分であった

## 【担当課の自己評価】

総合評価	D：やや不十分な成果にとどまった
評価の根拠	新型コロナウイルス感染症の影響等によりワークショップの開催回数が目標値に達しなかったこと及び、年間を通して全体的な活動が積極的にできず、目指す効果を十分達成できなかったため。

## 「生駒市行政改革大綱 前期行動計画」の取組状況（R2年度末時点）

取組No. 18

IV	市民、事業者等との協働によるまちづくりの推進
2	協働の取組の推進
(3)	市民のまちづくりへの参画

## 【取組状況】

担当課	図書館
取組内容	本を通じたコミュニティづくり、市民との協働事業の実施

## 【R元年度の取組】

R元年度の取組実績	各種ボランティア養成講座を実施し、図書館運営を協働して実施していただける市民ボランティアを育成した。ただし、新型コロナウイルスの影響を受け、新規に育成したボランティアの活動実施には至っていない。 音訳ボランティア養成講座 11回、おはなし語り手養成講座 8回、託児ボランティア養成講座 6回
-----------	--

		指標1	指標2	指標3
実績・数値目標	指標名	図書館事業協働ボランティア団体数	図書館事業協働ボランティア新規加入人数	
	目標値	9団体	10人	
	R1実績値	10団体	12人	
	歳入増加額(千円)	-	-	
	歳出削減額(千円)	-	-	
	目標値と実績値の差分についての理由	市民の自主的な活動により1団体が結成されたため。	音訳 3人 お話し語り手 0人 託児ボランティア 7人 修理ボランティア 2人 お話し語り手養成講座については、10人受講され生駒市図書館以外の場で活動を継続されている。その他、以前から個人で活動されていた修理ボランティア2人が団体として活動を開始した。	

## &lt;総合評価&gt;

A：高い成果が得られた B：予定どおりの成果が得られた C：一定の成果が得られた  
D：やや不十分な成果にとどまった E：成果は不十分であった

## 【担当課の自己評価】

総合評価	B：予定どおりの成果が得られた
評価の根拠	目標値をうわまわることができた。ボランティアの養成講座を実施し、終了生が学んだスキルをいかしながら、ボランティア同士が交流をし、市民とのコミュニケーションをとっていただくことにより、図書館が親しみのある存在になり、また、まちづくりに貢献できる活動となったと考える。

## 【R2年度の取組】

R2年度の取組実績	各種ボランティア養成講座を実施し、図書館運営を協働して実施していただける市民ボランティアを育成し、読書推進活動に図書館と協働して活動していただいた。また、新しく1団体が立ち上がった。			
	音訳ボランティア養成講座 10回、おはなし語り手養成講座 8回、託児ボランティア養成講座 1回、学校図書館本の修理ボランティア養成事業（いこま寿大学実務者講習会2回+図書館での実習11月から週3回）工作ボランティア団体1団体結成。			
実績・数値目標		指標1	指標2	指標3
	指標名	図書館事業協働ボランティア団体数	図書館事業協働ボランティア新規加入人数	
	目標値	10団体	10人	
	R2実績値	11団体	16人	
	歳入増加額(千円)	-	-	
	歳出削減額(千円)	-	-	
	目標値と実績値の差分についての理由	新たに図書館内のショーケースなどの展示作成を行う工作ボランティア団体が立ち上がったため。	音訳 2人 本活部 3人 工作ボランティア団体 2人 学校図書館修理ボランティア 9人	

## 【R3年度の取組】

課題	・本を介在させた市民活動の創出と、活動場所の提供。 ・新型コロナウイルス感染拡大の中でも、様々な工夫をし、安全対策を行った上で市民協働事業を継続して実施し、図書館がまちづくりの拠点となるよう成果を出していきたい。
課題に向けた取組	・令和元年度に託児ボランティアを養成したが、コロナのため実施できなかった「こあら」について、本館で託児を開始するとともに、南、北分館でもボランティアの養成を行う。 ・知的障がい者等への読書啓発を行うボランティアの養成講座を開催する。 ・各団体の新規メンバーの獲得に努め、活動の活性化を図る。

## &lt;総合評価&gt;

A：高い成果が得られた B：予定どおりの成果が得られた C：一定の成果が得られた  
D：やや不十分な成果にとどまった E：成果は不十分であった

## 【担当課の自己評価】

総合評価	A：高い成果が得られた
評価の根拠	コロナ禍により、目標としていた託児ボランティアの立上げがやむを得ず実行できなかったが、修理ボランティアや音訳ボランティアを養成することが出来た。感染拡大のなか、できるだけことはしようという市民と図書館員の思いが実ったと考える。

「生駒市行政改革大綱 前期行動計画」の取組状況（R2年度末時点）

取組No. 19

IV	市民、事業者等との協働によるまちづくりの推進
2	協働の取組の推進
(3)	市民のまちづくりへの参画

【取組状況】

担当課	都市計画課
取組内容	地域特性に応じたまちづくり（ミライ会議）

【R元年度の取組】

R元年度の取組実績	<p>萩の台地域で、地域住民主体のWS「萩の台ミライ会議」を開催。40～70代の多世代が集い、資源や課題を話し合い、地域の材料を使ったリースづくりや椎茸づくりなど、暮らしを豊かにするアイデアを企画・実現した。対面での話し合いや地域資源を活かした取組の実現を通して、旧集落と新興住宅地間の住民の交流を促進し、互いのライフスタイルや価値観への受容と理解が進んだ。（4回開催 延べ125名参加）</p> <p>「萩の台ミライ会議」の参加者へのアンケートでは、85%以上が「参加して新しい気付きや気持ちの変化があった」と回答し、旧集落居住者の意識や行動に変化が表われた。</p>
-----------	---

		指標1	指標2	指標3
実績・数値目標	指標名	ミライ会議の開催箇所数及び参加者数		
	目標値	2箇所・240名（累計）		
	R1実績値	2箇所・265名（累計）		
	歳入増加額（千円）	-		
	歳出削減額（千円）	-		
	目標値と実績値の差分についての理由			

<総合評価>

A：高い成果が得られた B：予定どおりの成果が得られた C：一定の成果が得られた  
D：やや不十分な成果にとどまった E：成果は不十分であった

【担当課の自己評価】

総合評価	B：予定どおりの成果が得られた
評価の根拠	・実績値が目標値を上回ったため。

【R2年度の取組】

R2年度の取組実績	萩の台地域で、地域住民主体のWS「萩の台ミライ会議」を開催する予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大を受け地域住民と協議の上、延期した。			
実績・数値目標		指標1	指標2	指標3
	指標名	ミライ会議の開催箇所数及び参加者数		
	目標値	3箇所・360名（累計）		
	R2実績値	2箇所・265名（累計）		
	歳入増加額（千円）	-		
	歳出削減額（千円）	-		
目標値と実績値の差分についての理由	R2年度はコロナ禍の影響を受け、会議の開催がかなわなかったとともに、R3年度以降は「複合型コミュニティ」に組み入れる予定であるため。			

【R3年度の取組】

課題	
課題に向けた取組	

<総合評価>

A：高い成果が得られた B：予定どおりの成果が得られた C：一定の成果が得られた  
D：やや不十分な成果にとどまった E：成果は不十分であった

【担当課の自己評価】

総合評価	D：やや不十分な成果にとどまった
評価の根拠	・新型コロナウイルス感染拡大を受け延期したことから、実績値が目標値を下回ったため。

「生駒市行政改革大綱 前期行動計画」の取組状況（R2年度末時点）

取組No. 20

IV	市民、事業者等との協働によるまちづくりの推進
2	協働の取組の推進
(3)	市民のまちづくりへの参画

【取組状況】

担当課	広報広聴課・商工観光課
取組内容	都市ブランド形成

【R元年度の取組】

R元年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>ポータルサイト「good cycle ikoma」や市公式SNSの運用、動画制作、各種広告を使用した情報発信を行った。ポータルサイト閲覧数は予想を大きく上回り、令和元年初に開設した市公式インスタグラムのフォロワーも月平均80ずつ増加するなど、生駒の暮らしに関する情報接触量を市民協働で増やすことができた。</li> <li>職員向け広報・コラボ相談室（3回14事業）や市役所6課が連携した「スタイリングウィーク」など、庁内各課の連携支援を行い、広報手法や事業改善につながった。</li> <li>いこまち宣伝部の運営といこまち宣伝部が企画するツアー「いこまどりっぷ」を実施した。</li> <li>IKOMA SUN FESTAを実施した。</li> </ul>
-----------	--

実績・数値目標	指標1		指標2		指標3	
	指標名	推奨意欲を持つ人の割合	指標名	IKOMA SUN FESTAに来場し生駒に対する印象が良くなった人の割合	指標名	good cycle ikoma の閲覧総頁数
	目標値	-		75.0%		60,000頁
	R1実績値	-		74.5%		86,324頁
	歳入増加額(千円)	-		-		-
	歳出削減額(千円)	-		-		-
	目標値と実績値の差分についての理由					市が目指す将来都市像の実現に向けた事業や地域情報を中心に、市民協働で定期的に記事を更新したことや、SNSや広告なども効果的に利用したため、目標値を大きく上回る結果となった。

<総合評価>

A：高い成果が得られた B：予定どおりの成果が得られた C：一定の成果が得られた  
D：やや不十分な成果にとどまった E：成果は不十分であった

【担当課の自己評価】

総合評価	B：予定どおりの成果が得られた
評価の根拠	ポータルサイト「good cycle ikoma」や市公式SNSなどを通じて生駒の暮らしに関する情報発信を市民協働で行った。また、職員向け広報・コラボ相談室や市役所6課が連携した「スタイリングウィーク」などの事業を通じて庁内各課と連携し、事業改善や新規事業を創出した。その結果、指標3の目標値を達成できた。

【R2年度の取組】

R2年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>ポータルサイト「good cycle ikoma」で、市内の多様な暮らし方や住まい方を紹介し、将来都市像を体現する人物や活動等を可視化した。</li> <li>「いこまち宣伝部」や「ローカルフォト講座」を通じ、地域の魅力を体験・推奨する機会を作った。コロナ禍における、いこまち宣伝部の主体的なテイクアウト情報の発信や、地域の魅力を発信するオンライン番組の企画をサポートした。</li> <li>庁内向けの相談会・勉強会の実施や、6課が連携した「スタイリングウィーク」など、庁内各課の連携を広報面から支援し、広報手法や事業内容の改善につなげた。</li> <li>IKOMA SUN FESTAについては、いこまの魅力創造課から事業を引きついだものの、コロナ禍によりイベント中止となった。</li> </ul>
-----------	---

実績・数値目標	指標1		指標2		指標3	
	指標名	推奨意欲を持つ人の割合	指標名	IKOMA SUN FESTAに来場し生駒に対する印象が良くなった人の割合	指標名	good cycle ikoma の閲覧総頁数
	目標値	63.0%		75.0%		70,000頁
	R2実績値	60.0%		-		108,685頁
	歳入増加額(千円)	-		-		-
	歳出削減額(千円)	-		-		-
	目標値と実績値の差分についての理由					新型コロナウイルス感染症の影響で、IKOMA SUN FESTAなど多数の事業が中止されたとともに、市の情報発信はコロナに関するものが中心になった。その結果、市民が生駒市のポジティブな情報に接触する機会や参画機会が減り、推奨意欲を持つ人の割合が下がる一因になったと考えられる。

【R3年度の取組】

課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>ポータルサイト「good cycle ikoma」のコンテンツの充実と回遊性の向上</li> <li>将来都市像の実現に向けて、市内で新しい活動や暮らし方を実践する人の増加や、新しいライフスタイルを実感できる場づくりなどが必要となるが、全庁的な取組が十分といえない。</li> <li>IKOMA SUN FESTAについては、R3年度においても新型コロナウイルスまん延防止により規模を縮小して開催行う予定であるが、コンセプトの変更を検討する必要がある。</li> </ul>
課題に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民活動推進課と協働して複合型コミュニティ事業を行う地域の魅力や暮らしに関する情報をまとめたページを作成する。また、トピックスコーナーでは、注目情報・プロジェクトを継続して表示できるようにレイアウトを変更し、ユーザーが見つけやすいように工夫する。</li> <li>まちづくりの転換の必要性や将来都市像を実現したまちの状態を職員同士が話し合う機会を増やし、コミュニケーションを活性化させて部門間の連携を促すために、庁内向けの事業相談会・研修会を実施する。</li> <li>IKOMA SUN FESTAについて                         <ol style="list-style-type: none"> <li>①コンセプトを変更                                 <ul style="list-style-type: none"> <li>・シティブロモーション→市民に対するプロモーション</li> <li>・活気と温かさ→事業者の新しい取り組みの見える化</li> <li>・シブクプライド→コロナ禍における事業者支援</li> </ul> </li> <li>②ターゲットを変更                                 <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内7割、市外3割→市民10割</li> </ul> </li> <li>③コンテンツの変更                                 <ul style="list-style-type: none"> <li>を検討中。</li> </ul> </li> </ol> </li> </ul>

【担当課の自己評価】 <総合評価>  
 広報広聴課 A：高い成果が得られた B：予定どおりの成果が得られた C：一定の成果が得られた  
 D：やや不十分な成果にとどまった E：成果は不十分であった

総合評価	B：予定どおりの成果が得られた
評価の根拠	令和元年度と同様にポータルサイト「good cycle ikoma」を中心に生駒の暮らしに関する情報発信を市民協働で行った結果、指標3の目標値を大きく上回った。一方で、新型コロナウイルス感染症の影響で市民が生駒市のポジティブな情報に接触する機会や参画機会が減ったことが一因となり、指標1については目標を達成できなかった。

【担当課の自己評価】 <総合評価>  
 商工観光課 A：高い成果が得られた B：予定どおりの成果が得られた C：一定の成果が得られた  
 D：やや不十分な成果にとどまった E：成果は不十分であった

総合評価	E：成果は不十分であった
評価の根拠	IKOMA SUN FESTAについては、いこまの魅力創造課から事業を引きついでものの、コロナ禍によりイベント中止となったため

## 「生駒市行政改革大綱 前期行動計画」の取組状況（R2年度末時点）

取組No. 28

	財政規律を確保するための 財政指標の目標値設定
1	財政規律を確保するための財政指標の目標値設定
(1)	財政計画に基づく経常収支比率等の指標管理

## 【取組状況】

担当課	財政課
取組内容	財政指標の目標値の設定・管理

## 【R元年度の取組】

R元年度の 取組実績	中期財政計画を作成・公表することにより、経常収支比率や市債残高等の見通しを明らかにした。財政状況を適切に把握し、長期的な視点で財政運営を行うことで、健全な財政運営の維持に繋がった。		
	実績収支 1,477,901千円		
	指標1	指標2	指標3
指標名	経常収支比率	実績収支比率	
目標値	95.4%	3.0～5.0%	
R1実績値	94.3%	6.5%	
歳入増加額 (千円)	-	-	
歳出削減額 (千円)	-	-	
目標値と実績 値の差分につ いての理由	比率が低いほど、臨時的経費に 充当できる一般財源に余裕があ ることを示している。 経常収支比率は前年度より上昇 したものの、地方交付税等の増額 により目標値は達成できた。	歳出の削減や、市債の活用等によ る歳入の確保に努めたことにより、 前年度繰越金等が増額となり、予 想を上回る黒字となった。	

## &lt;総合評価&gt;

A：高い成果が得られた B：予定どおりの成果が得られた C：一定の成果が得られた  
D：やや不十分な成果にとどまった E：成果は不十分であった

## 【担当課の自己評価】

総合評価	B：予定どおりの成果が得られた
評価の根拠	実績値が目標値を上回る結果となったため。

## 【R2年度の取組】

R2年度の 取組実績	中期財政計画を作成・公表することにより、経常収支比率や市債残高等の見通しを明らかにした。財政状況を適切に把握し、長期的な視点で財政運営を行うことで、健全な財政運営の維持に繋がった。		
	実績収支 1,810,871千円		
	指標1	指標2	指標3
指標名	経常収支比率	実績収支比率	
目標値	95.8%	3.0～5.0%	
R2実績値	89.7%（暫定値）	7.7%	
歳入増加額 (千円)	-	-	
歳出削減額 (千円)	-	-	
目標値と実績 値の差分につ いての理由	比率が低いほど、臨時的経費に 充当できる一般財源に余裕があ ることを示している。 退職手当、公債費等の経常的 経費の支出の減や、県税交付金 や地方交付税等の一般財源の 増額により目標値を達成できた。	歳出の削減や、国庫支出金や市 債等の特定財源の確保に努めたこ とにより、前年度繰越金等が増額 となり、予想を上回る黒字となっ た。	

## 【R3年度の取組】

課題	生産年齢人口の減少に伴い、市税収入の増加は見込めず、歳出においては社会保障関係費の増加や施設の老朽化等に伴う維持管理・更新経費の増加も見込まれるなど経常経費が市の財政を圧迫する厳しい状況にある。
課題に向けた取組	引き続き、中長期的な視点で財政計画を作成するとともに、歳入確保に努め、事業見直し等を進めて経常経費の抑制に努める。

## &lt;総合評価&gt;

A：高い成果が得られた B：予定どおりの成果が得られた C：一定の成果が得られた  
D：やや不十分な成果にとどまった E：成果は不十分であった

## 【担当課の自己評価】

総合評価	B：予定どおりの成果が得られた
評価の根拠	実績値が目標値を上回る結果となったため。